5．論点と考察

5－1　枠組み先行型の社会資源創出

東広島市における障害者福祉の発展史は、この地域が大規模な社会資源をベースに「枠組み」を先行して発展してきたことで特徴付けられることを示している。地域概況には「1992（H４）年に知的障害者通所授産施設が誕生するまで通所系施設は存在しなかった」とあるが、これは在宅福祉に関する資源が乏しかったというようりは、むしろ県単位で見ても大規模施設が集中しているという地域性の中で、各ライフステージについてほとんど全ての生活に対応するだけの枠組みが存在していたことに起因する部分が大きいのではないだろうか。

一方、新しい社会資源あるいはネットワークの誕生についても、上記の特徴は反映されている。つまり、「委員会」や「会議」といった枠組みの中から、新しい社会資源やネットワークが誕生してきているということである。例えば、社会福祉協議会が主催した「東広島福祉のまちづくり１００人委員会」からはバリアフリー研究会が生まれ、やがて当事者主導の NPO 法人へと繋がっている。また、市の福祉課長主催によるサービス調整チーム会議がケアマネジメント推進事業へ移行する過程で、障害者福祉従事者の自主的な集い「ネットワーク東広島（ネット E じゃん）」が生まれ、さらに支援費制度導入に向けた会議では、行政機関とケアマネジメント機関の相互信頼関係（ネットワーク）が生まれている。

ここには、目的先行型ネットワークではなく、枠組み先行型ネットワークの成功例が示されているのではないだろうか。つまり、理論上は、１つの目的が先に存在し、その目的に対応して必要な社会資源が繋がることがネットワーク形成の王道だとしても、しかし実際には、当初の目的によって集まった社会資源が結果的にネットワークとなり、当初の目的とはズレた部分で有効に機能する場合があるということである。この場合、ネットワークに焦点を当てれば当初の目的は単なる「枠組み」であり、このような過程で形成されたネットワークを「枠組み先行型ネットワーク」と言い表すことが出来るのではないだろうか。

５－２　ネットワークの適正規模

一般に、グループワーク（あるいはグループ運営）におけるグループダイナミクスが効果的に働く適正人数は５～８人と言われている。協議することによって結論を出すべき命題が明確な場合や情報収集・情報交換のための勉強会などの場合は別だが、グループメンバーの相互作用によって「新しい何か」を生み出そうとするときには、やはり大き過ぎず小さ過ぎないグループの適正規模があるのではないだろうか。東広島の事例においては、障害者ケアマネジメント推進事業について、ケアマネジメント体制整備を推進するシステムの構築に至らなかった理由の１つとして「委員会が適正規模を超えていたこと」を挙げている。

一方、５－１において各種の委員会や会議から新しいネットワークが生まれたと述べたが、それではネットワークについても適正規模というものは存在するのであろうか。一般にネットワークの質の高さを示す言葉として「決め細やかなネットワーク」ということが言われる。確かに明確なテーマについて１問１答式に対応が求められるような場合には、専門性ごとに細分化されたネットワークが有効であると考えられる。しかしながら、例え

ば一人の利用者を中心に置いたネットワークを構成する社会資源（人や機関など）が、相互に影響し合いながら「新しい何か」を生み出そうとしたとき、グループダイナミクスに少なからず影響する適正規模というものあると考えられるのである。

５－３　個別の勘案事項を顕在化する仕組み

社会福祉援助における「個別化の原則」、また個別ニーズを重要視する障害者ケアマネジメントの実践において、個別の勘案事項をどこまで顕在化し支援に反映することが出来るかということは非常に重要な課題である。東広島市においても、支援費制度導入に際し行政と合同で実施した「勉強会」の結果として、支援費支給決定に伴う勘案事項調査（支給決定材料の確保）を支援システムとして整理する可能性が生まれたとある。そして、この「勘案事項」には、例えば「その介護が得られなければ生きていけない」というような最低限の保障だけではなく、障害をもつ人たちが自立生活を実践していくことができるような自立支援という部分が充分に勘案されなければならないのではないだろうか。

例えば、タイムスタディで取り上げた事例では、EH さんには、結婚している・ピアカウンセラーとして活動している・当事者団体（NPO）の役員として活動しているといった私的あるいは社会的な事情がある。また、中途障害の ET さんの事例には、若いヘルパーによる入浴介護を受けながら鼻パック・髭剃り・耳掃除…と、どんどん要求が増えていく様子が、さらにはパソコンを練習することで大学生とメール交換を始めるなど、ET さんの世界が広がりつつある様子があらわれている。このように、生きていくために最低限度の部分について「勘案」することは当然であるが、障害をもつ人たちがエンパワーし、いずれ自立生活につながるような個別の状況について精査した上で、個別の勘案事項を顕在化して支援に反映するような仕組みが必要不可欠なのである。そして、ここでは支援費支給量を決定する行政と個別の状況を充分に理解することの出来る支援センターとの連携は欠くことができない。また、支援センターには、個別の状況を的確に判断できるスキルと当事者がエンパワーしていくためのプログラムの提供が同時に求められているのではないだろうか。

５－４　家族による介護

タイムスタディで取り上げた事例では、ET さんが最も多く家族による介護を受けている。その時間は、一週間で実に 65 時間にも及び、授産施設が休みになる土日には２日間だけで 25 時間 30 分になっている。これは自宅にいて眠っている時間以外のほとんどにあたり、介護は主として母親が担っている。一方、母親は週に一回の割合でコーラスのサークル活動に参加している。そして、この間は、母親の友人による「見守り」で ET さんは楽しく過ごせている。

以上のような状況は、通所系施設に通う障害者のいる家庭においては典型的な状況ではないだろうか。ここには、もちろんその状況を家族が選択しているなら別であるが、障害者の家族（主に母親の場合が多い）が「障害」を理由に著しく生活を制約されてよいのかという根本的な問題がある。本来は「障害」によって差別されないような社会を作らなければならないにも関わらず、社会資源・制度・サービスの未整備によってそれが実現しておらず、当事者や家族の非常な努力によって補って頂いているという現実をまずは充分に

直視しなければならない。

その上で、ETさんの事例には、完全な介護（24時間介護）以外の方法で現状を改善するヒントが存在している。それは「見守り」である。それも、必ずしもプロの援助者による関わりでなくても一定の意味を読み取ることができる。また、例えばETさんは29才の男性であるが、障害のない29才の男性は仕事が終われば一人であるいは仲間と一緒に趣味の活動や外食を楽しむのが普通ではないだろうか。たとえボランティアベースによってでも、夕方以降や休日の余暇活動を保障することは、本人や家族を支える大きな力となるのである。

5－5「自分らしい生活」を踏まえた支援

EKさんのタイムスタディを精読すると、EKさんが一見「不便な生活」を送っているように見える部分がいくつかある。例えば、食事は冷凍物やインスタント食品が多く、また水道のトラブルに仕方なく入浴や洗濯を諦める記述もある。しかし同時に、EKさんはとても「気楽な生活」を送っているようにも見える。仲間との食事会で酒を飲み過ぎたり、スポーツセンターを利用しての筋肉トレーニング、また、友人Aとの電話や訪問を日常的に楽しんでいる。

支援費制度における支給量の決定は、基本的に本人の申告に基づいて「過不足のない支援」が決定される仕組みになっている。しかしながら、あくまでも本人の申告がベースになるので、申告した量よりも支給量が増えることは稀であるのが現状であろう。そして、そのような状況が、当事者たちの間に「使わなければ減らされる」といった不安感となって広がっているように思われる。支援費制度の原理的には、使わなかった分の支援量が減っても、また必要となれば過不足なく増加される。しかし、これが「最低限必要な量」であれば、やはり利用者の不安感は拭えないであろう。

EKさんの事例では、多少の不便があっても最小限の支給量で「自分らしい生活」を追っている様子が伺える。また、EUさんは夫婦生活の中で、あるいはETさんは家族との生活の中で、それぞれに自分らしい生活を送っている。5－4でも述べたように、家族や夫または恋人からの支援が期待できるから支援量が減るのではなくて、当事者がそれを「自分らしい生活」として選んだときに支援量に反映されるという仕組み、すなわち「自分らしい生活」を踏まえた支援が実現したときに、支援費制度は本当の意味で「過不足のない支援」となるのではないだろうか。

第６章　善通寺市における地域生活支援に関する調査報告

１．善通寺市を選択した理由

我々が善通寺市を選んだ理由は、次の二つである。一つは、障害をもつ人たちを地域社会で支援していくという意識がなく、幼児期より施設へ入所することを通常と考えていた障害児の母親等が「地域での生活」を考えるようになり、活動を始めてから日が浅く、地域支援体制と初期段階を検証するのには最適の土地であった。もう一つは、市の中心に位置する四国学院大学の社会福祉学専攻に属する学生たちのボランティア活動を中核とする“インフォーマルサポート”が原動力であったことが非常に興味深かい。障害者ケアマネジメントを考えていく上で、公助ばかりではなく、共助や互助を必要とするので、この土地での取り組みや支援費制度施行後の変化を見ていくことにより、地域支援システムの評価基準を思案できるのではないかと考えたのである。

２．調査方法

２－１　調査期間

（１）調査全体の期間

2003 年　9 月 21 日から　2004 年　2 月 15 日まで

（２）連続観察聞き取り調査の期間

Ｆ．Ｔさん：2003 年 10 月 28 日から 2003 年 11 月　3 日まで

Ｆ．Ｙさん：2003 年 11 月　7 日から 2003 年 11 月 13 日まで

２－２　調査対象者の数と内訳

善通寺市においては、身体障害をもつ女性と知的障害をもつ女性という二人にお願いをした。その一人は、地域社会での生活を営んでいる唯一の障害をもつ人であるＦ．Ｔさんを取り上げた。彼女は、脳性マヒによる重度の全身性障害者である。日中は、通所授産施設を利用し、帰宅後は「自薦式ヘルパー」を日常生活支援に対応させて生活している。そして、支援量を超過する部分は、その自薦式ヘルパーをボランティア的に利用することで生活を成り立たせているのである。彼女を取材することにより、支援量が少ない地域で、ボランティア等の“インフォーマルサポート”がどのように機能しているのかを検証しようとしたのである。

もう一人は、重度の知的障害をもちながらも、グループホームでの生活を営んでいるＦ．Ｙさんを取り上げた。彼女は、グループホームでの生活を基本にしながらも、日中は複合利用という名目で「身体障害者通所授産施設」を利用し、週末は移動介護（ガイドヘルパー）も活用するという三種の支援費項目を柔軟に利用している。彼女を取材することにより、グループホームという生活形態を基本にした場合の地域生活支援を明確にしていけると考えたのである。

２－３　調査員の数と内訳

調査協力者として岡本卓也が、そして現地協力者として渡辺顕一郎（四国学院大学教授）が総合的に調査に関わった。そして、その他の調査員の数と内訳は、以下のとおりである。

Ｆ．Ｔさん：彼女自身が話した内容をヘルパーや施設職員が代筆している。あくまでも本人の言葉で忠実に書き写したもので、延べ１０名近くの人たちが協力体制をとってくれたのである。

Ｆ．Ｙさん：グループホームの世話人と施設職員という三名が担当し、記録してくれている。外出した時の様子などは、ガイドヘルパーへの聞き取りを行ない、言動などを忠実に記録した。

２－４　取材の仕方

Ｆ．Ｔさん：１週間の連続記録に関しては、本人に記録をお願いし、現地協力者の渡辺顕一郎が援助するという形をとった。その後に、岡本卓也が直接にインタビューし、詳細な時間データやプロフィール等を聞いていった。

Ｆ．Ｙさん：「希望の家」の施設長である田中氏を通して、本人と家族の承諾を得た後に、グループホーム世話人や施設職員が１週間の連続記録を担当する形をとった。連続調査後の詳細にわたる追調査が実行できなかったが、プロフィール等は同法人の支援センター「ふらっと」の職員に取材協力を依頼した。

３．善通寺市の地域概況

３－１　当該市の全容

善通寺市は、香川県の北西部に位置し、北を丸亀市、多度津町、南を琴平町、満濃町、西を三野町、高瀬町に接している人口３．６万人（香川県総人口の３．５％）の都市である。

市域は東西８．９km、南北７．９６kmで、面積は３９．８８km²で、香川県の総面積の２．１％を占めている。

地形は平坦であり、平地部には金倉川と弘田川が南北を流れる。南には大麻山、西には五岳の山々を背にし、北部、東部へは平地が開け、讃岐平野に続く。

瀬戸内海に属する気候は温暖で雨量は少なく、冬期の寒さは比較的穏やかで、積雪も平地部ではほとんど見られない。

３－２　都市の沿革

善通寺市の名は、この地で生を受けた弘法大師（空海）が青龍寺を模して七堂伽藍を建立した際、寺の名を父である佐伯善通の名からとったことに由来する。江戸時代には四国霊場八十八ヶ所巡礼が盛んになり、善通寺付近の集落は、総本山善通寺の門前町として賑わう。また本市は総本山善通寺の他にも、史跡や文化財を数多く有する街であり、有岡古墳群などの埋蔵文化財は国の指定を受けた、貴重な歴史的、文化的遺産である。

明治以降は旧陸軍第 11 師団が設置されたこともあり、街は終戦まで軍都として栄えていった。その後、旧陸軍第 11 師団跡は市役所をはじめとする官公庁や自衛隊、教育施設

等が建ち並ぶ本市の中心地となっている。

1954 年に善通寺町、与北村、龍川村、筆岡村、吉原村の 1 町村が合併し、善通寺市が誕生した。

３－３　障害者手帳所持者数の推移

身体障害者手帳数は、12 年度から 15 年度のまでで 101 人増加している。療育手帳所持者数は 17 人増加、精神障害者保健福祉手帳所持者数は平成 10 年度から 14 年度の 5 年間で 6 人増加している。手帳所持者数は増加の傾向にあり、特に身体障害者手帳数は 14 年度から 15 年度の 1 年間で 62 人と大幅に増加している。

身体障害者手帳所持者数

区分	年齢別	12 年度	13 年度	14 年度	15 年度
視覚障害	65 歳以上	104	108	111	106
	65 歳未満 18 歳以上	46	44	43	44
	18 歳未満	1	1	1	1
	計	151	153	155	151
聴覚・平衡機能障害	65 歳以上	111	117	119	126
	65 歳未満 18 歳以上	26	23	24	20
	18 歳未満	3	3	3	3
	計	140	143	146	149
音声・言語機能障害	65 歳以上	10	11	11	13
	65 歳未満 18 歳以上	6	8	10	10
	18 歳未満	1	0	0	0
	計	17	19	21	23
肢体不自由	65 歳以上	476	501	496	513
	65 歳未満 18 歳以上	280	272	277	285
	18 歳未満	11	10	10	12
	計	767	783	783	810
内部障害	65 歳以上	194	210	204	237
	65 歳未満 18 歳以上	110	110	108	108
	18 歳未満	2	2	3	4
	計	306	322	315	349
総計	65 歳以上	895	947	941	995
	65 歳未満 18 歳以上	468	457	462	467
	18 歳未満	18	16	17	20
	計	1381	1420	1420	1482

各年 10 月 10 日現在

３－４　全体的な施策推進へ向けての動向

1991 年に、「第３次善通寺市長期振興計画」が策定され、1997 年には「善通寺市障害者福祉基本計画」が策定された。

2001 年に策定された、「第４次善通寺市総合計画」のなかで、障害をもつ人が生活している地域において、地域住民とともに支えあい生活していく環境の整備を図り、地域ぐるみの福祉活動の展開の促進に努める方針を定めた。障害のある人にとって住みやすい社会の創造が、すべての人にとって住みやすい社会といえる。このことが重要な課題である。

このことを踏まえ、「善通寺市障害者福祉基本計画」を見直すことが必要となり、2003 年、「第 2 次善通寺市障害者福祉基本計画」が策定されたばかりである。この計画は、平成 15 年度から平成 22 年度まで、社会情勢やニーズの変化に合わせ、見直しを行いながら、的確な施策推進に努めるとしている。

３－５　障害者福祉サービスの状況

施設訓練等支援費支給決定状況

法区分	施設の種類	15 年 12 月末日までの決定数	経過措置該当者 16 年 1 月末のみなし受給証交付数
身体障害者福祉法	更生施設(入所)	4	0
	更生施設(通所)	0	0
	療護施設(入所)	6	0
	療護施設(通所)	0	0
	入所授産施設	2	0
	通所授産施設	10	0
知的障害者福祉法	入所更生施設	21	0
	通所授産施設	0	0
	入所授産施設	7	0
	通所授産施設	5	0
	通勤寮	0	0
	心身障害者福祉協会が設置する福祉施設	0	0

３－６　移動・交通生活環境

バリアフリー化の推進に伴い、本市では車いすがすれ違うことのできるゆとりある歩道を目指し、自転車駐輪場の整備を進めている。重度障害者の移動手段としてタクシーの助成を行う。また、専用携帯端末等を利用し、視覚障害のある人や高齢者の方が信号機のある交差点において安全に横断できるように誘導する「歩道者支援情報システム」を試験運用し、障害のある人も安全で快適に外出できる環境を目指している。

３－７　情報提供・相談事業・広報活動

「広報善通寺」や「社協だより」などに、障害福祉の情報をより多く掲載するように努めている。市が行っている「ふれあいリクエスト講座」は、市がどのような仕事をしているか、また職員の意識改革はどうであるかといった内容を市民に理解してもらう講座である。市民の要望に応じて行っているこの講座の中にも、障害福祉について啓発・広報に努めるようにしている。

4．結果と考察

4－1　F．Tさんのケース

（1）　F．Tさんのプロフィール

1957年、F．Tさんは、妊娠8ヶ月の時に、1900gの未熟児で生まれた。当時の医学や家庭での出産ということもあり、脳性マヒとなったのである。家族は、路面電車の運転手をしていた父と同じ職場の車掌を勤めていた母、そして兄、姉の5人で暮らしていた。

アテトーゼ型と痙直型を併せもつF．Tさんは、幼児期より日常生活の全てに介護が必要であった。学校教育に関しては就学免除となり、学校へ行けなかった。そのため、1998年に身体障害者通所授産施設「希望の家」に通うまでの間、ずっと家の中で過ごしていたのである。

彼女が授産施設に通い始めて1年後の1999年6月に、体調を崩していた母は病気のため他界してしまった。2001年に「希望の家」がグループホーム「オリーブ」を設立したことを機に、F．Tさんはその1室を借りて生活することになった。その2年後の2003年、彼女自身の意思により、大学の近くにあるアパートを借りて、新しい生活を始めることになった。

現在、授産施設においては印刷班に所属し、名刺や年賀状をパソコンで作成している。週に1度は市役所や学校へ出向き、印刷物の受注を増やすための営業を行なうなど、意欲的に仕事へ取り組んでいる。趣味はコーヒーを飲みながら友人と話すこと。最近の好きなアーチストは、葉加瀬太郎である。

（2）　F．Tさんの生活環境

福祉機器に関しては、電動ベッドと入浴時にシャワーチェアを使用している。排便や排尿は、横になった状態で行なっており、差込み便器を使用する。晩御飯は基本的に家で食べる。ヘルパーさんに指示を出し、30分から1時間の時間を掛け調理している。家ではヘルパーさんと談話したり、週に1,2度パソコンでワープロを使用したりして過ごしている。

一月の収入は、1級年金が月に約83000円、善通寺市の介護手当が月に20000円、希望の家の給料が月に8000円、更正訓練費が月に3150円である。アパートの家賃代39000円は父が負担している。その他に送迎にかかる費用として、市から日割に3400円～3800円が支給されている。これらの収入により、今はなんとか生活はできているが、父が79歳という高齢ということもあって、今後、仕送りが入らなくなったときのことを考えると不安を感じている。

（3）　F．Tさんの利用する日常生活支援サービス

授産施設に通っている時間以外は、基本的にはＮＰＯ法人『自立ケアシステム香川』のヘルパーを利用している。F．Tさんが21人の学生を登録した自薦式のヘルパーである。そのうち18人ほどがローテーションを組んでF．Tさんの介護にあたっている。F．Tさんと学生の一人がコーディネーターとなって、1ヶ月毎のシフトを組んでいる。そのため、その日に急病などで来ることができなくなる介護者がいるなど、介護者が安定しないのが悩みである。

（4）F．Tさんの1週間

2003年10月28日

6時30分

F．Tさんは目を覚ました。昨晩から泊まっている介護者にトイレ介護を依頼する。トイレはベッドの上で差込み便器を用いて行う。トイレを済ませ、着替えをする。その後、毎日の日課である肩の運動をする。介護者がF．Tさんの腕をまわして肩の筋肉をほぐす。

7時30分

介護者がコーヒーを入れ、昨夜の残り物を冷蔵庫から出して、冷凍していたご飯を温め食べる。食後にコーヒーを飲む。介護者も一緒に飲む。

8時10分

介護者が茶碗とコップを洗って片付ける。歯みがきをすませて、ウエットティシュで顔を拭き化粧を済ませる。

8時50分

授産施設の送迎バスが来る。ここで泊まりの介護者と別れる。25 分ほどで授産施設へ到着。F．Tさんは、いつものようにメンバー（授産施設に通う仲間）の皆とあいさつを交わし、事務所へ行きスタッフと会話をする。

9時50分

作業室での仕事が始まる。印刷の作業をする。40 分ほど作業をしたところで休憩に入る。食堂へ行き、F．Tさんの大好きなコーヒーを飲む。15 分の休憩をとり作業を再開する。印刷の続きを行う。

11時50分

スタッフの介護を受けながら昼食を食べる。スタッフと昼からの予定などを話しながら食べる。

13時50分

スタッフとメンバーと一緒に印刷の営業にまわり、パンフレットも配る。今日は中学校へ行く。学校では段差があり、車いすで上ることが困難であったため、車の中で待っていることにした。その次に向かった小児病院では、一緒にまわって営業活動を行った。

15時00分

授産施設に帰る。すこしすれば休憩時間に入るので、そのまま食堂へ行く。食堂でティータイム。実習生が来ていたので、一緒に紅茶を飲んだ。実習生に携帯のメールを打ってもらったり、電話を掛けてもらったりした。

15時30分

メンバーの人たちの帰る時間が来る。F．Tさんは残って仕事を片付けるため、皆を見送る。書類の作成のため、実習生と書類の記入をする。

17時00分

介護者に授産施設まで迎えにきてもらう。スタッフと話をした後、トイレに行く。

17時15分

介護者の車に乗り込み、F．Tさんの実家へ帰る。実家に帰ったが事前に連絡をしていなかったこともあり、留守であった。久しぶりに父に会うことができると思っていたので、少し淋しい気持ちになった。

18時00分
介護者と市内のうどん屋に行く。介護者とお喋りをしながら、うどんとおでんとおにぎりを食べた。(30分) 食事の後市内のスーパーで食材と日用品を買う。なるべく安いものを選ぶ。
19時30分
四国学院大学の一室を借り、自立生活についての勉強会をする。自立生活をしようとしている人にアドバイスをする。
22時30分
帰宅。トイレをし、家計簿をつけ、書類を書く。その後、入浴。入浴の方法はシャワーチェアに乗り、シャワー浴をする。歯磨きをする。
0時30分
ベッドで右向きになり寝る。就寝中には寝返りをするので、介護者が泊まり、介護をする。寝返りは1晩に2～3回行う。

2003年10月29日（水）
6時30分
起床。まず、トイレを済まし、着替えをする。その後、腕をまわして肩の筋肉をほぐした。起床して1時間後、朝食の準備を始める。今日の朝ご飯は、納豆かけゴハンと佃煮であった。お湯を沸かしお茶をいれ介護者もいっしょに飲む。食事を終え、茶碗とコップを洗って片付ける。歯磨きを済ませてウェットティッシュで顔を拭き、化粧を済ませる。
8時15分
介護者に頼んで、洗濯物を2階へ干しに行ってもらう。(所要時間：１５分) 1週間くらい掃除機をかけていなかったので介護者が掃除をする。ここまでで、前日から泊まっている介護者と次の介護者が交代する。
8時50分
香川医大へ向かう。3ヶ月おきに整形外科に通院することになっている。頚椎の術後の経過についてレントゲンを見ながら先生の説明を聞く。術後の経過は良好で、何の心配もないと先生に言われ安心した。待ち時間にコーヒーを飲みながら本を読んだ。
11時55分
診察が終わり会計を済ませる。お世話になったリハビリの先生に会いに行く。仕事中だったため、あまり話ができなく残念だった。
12時30分
病院の地下にある食堂で介護者とともにおしゃべりをしながら、うどんを食べた。食事の後、キャッシュカードで生活費の2万円をおろす。
13時15分
トイレを済ませて、ケアシステム香川の事務所へ行く。ケアシステム香川の代表は自宅にいるとのことだったため、直接自宅に行き、話しを聞いた。何年ぶりかの訪問でウキウキした。ケアシステム香川の活動状況を聞く。
16時00分
代表の家を出る。車の中で介護者と制度のことを話しながら帰る。約５０分で帰宅。ち

ょうど父が家に来ていたので、香川医大での診察の結果を話した。
17時00分
泊まりの介護者が来る。支援費の記録票を書く。その際、ふとしたことで、鏡が割れてしまい、掃除機をかけた。
17時30分
近くの病院へ行く。F．Tさんは肩の痛みのため電気治療を受けに病院へ行き電気をかける。そこで、看護婦さんとインフルエンザについての話をする。最近看護婦さんと仲良くなり、よく話をする。優しい看護婦さんで行くのが楽しみだ。
18時00分
病院を出てファンシーショップへ行く。ファンシーショップで鏡と鈴を買う。CDショップに行って、葉加瀬太郎のCDを買う。思いのほかに高かった。
18時40分
モスバーガーショップに行く。ポテトとコーヒー注文し、介護者と話をしながらメールを打ったりして楽しい一時を過ごした。
19時00分
大学の掲示板を見て、その後トイレに向かった。1時間ほど大学ないを散歩し、焼き鳥屋にむかう。友達と飲みながら、仕事の話や趣味の話をしながら楽しく過ごした。
22時30分
今日買ったCDを聴きながら、お茶を飲む。着替えやトイレをすまし就寝。

2003年10月30日（木）
6時30分
起床。トイレ、着替え、肩の運動をする。
7時30分
お湯を沸かして、インスタントのお味噌汁を入れ、ご飯を温め、お茶をいれて介護者と食べる。茶碗とコップを洗って片付ける。歯磨きを済ませて、ウェットティッシュで顔を拭き、化粧をする。8時30分、大便をする。ここまでで泊まりの介護者と次の介護者が交代する。
8時50分
通所授産施設の送迎バスが来る。9時10分に到着。メンバーの皆と挨拶を交わし、作業室に入り、久しぶりに来ていたメンバーと話をした。
9時30分
朝の会。今日の活動の内容を聞く。１０分後、仕事開始。封筒の印刷をする。しばらくして、メンバーの一人が封筒の枚数を間違えた。F．Tさんはメンバーに注意した。「もっと、しっかりしてヨ」と言った。10時30分、休憩に入る。ちょうどその時、支援センター（ふらっと）の人が来たので、今後の支援費の支給時間を延長する方法を相談した。支援センターの人から年賀状の申し込みの依頼を受け、メンバーと一緒に受付を行った。
11時50分
昼食。大好きなおでんだったので、おいしく食べた。スタッフと話をしながら楽しく、からかわれたりもしながら昼食をとり、缶コーヒーを飲んだ。

13時30分

Ｆ．Ｔさんのトイレ介護の方法について、新しいスタッフに教えた。

13時40分

作業開始。印刷の仕事をした。作業は１５時００分まで続く。作業終了後、メンバーと食堂でお茶を飲みながら、会話を楽しんだ。

15時40分

Ｆ．Ｔさんは送迎バスに乗り込む。バスの中でメンバーと話をする。

16時50分

送迎バスが家へ着いた時には、父が車いすの修理をするために来ていた。

17時00分

泊まりの介護者が来る。お米を洗って炊く。米のとぎ汁を栽培しているネギにやる。コーヒーを入れ、3人で飲む。

18時00分

家にコーディネーターが来る。実績記録票の書き直しをして、11月の日常生活の時間数を振り分ける。

18時30分

トイレの掃除をして、お風呂の掃除を行った。

19時30分

夕食作り。鍋、水たき。野菜を切り、話をしながら夕食を済ませた。夕食の後片付け使った食器を洗って片付ける。ご飯を分けて、冷凍をしておく。ガスレンジの上を磨く。

22時00分

ケアシステムのスタッフに電話をかけ、書類の渡し方を相談する。その後メンバーに電話をかけ仕事の相談に乗る。ローティションの変更をする。メールだったので、他の介護者と連絡をとり、変更を行った。その後、調査の書類を書く。

23時00分

歯を磨き、お風呂に入った。「おやすみなさい」と介護者に言った。

2003年10月31日（金）

6時30分

Ｆ．Ｔさん起床。いつものように朝の日課をこなす。2日分たまった洗濯をする。洗濯機を回している間に、昨夜の鍋の残りで、雑炊を作る。介護者と一緒に食べる。食後、茶碗とコップと鍋を洗って片付ける。生ゴミを出す。歯磨きを済ませ、ウエットティシュで顔を拭き、化粧をする。

8時30分

洗濯物干し。シワを伸ばして干すように介護者に指示をする。ここまでで泊まりの介護者と次の介護者が交代する。

8時50分

通所授産施設のバスが来る。9時10分、到着。メンバーの皆とあいさつを交わし作業に入る。ケアシステム香川のスタッフさんに、10月分の居宅介護サービス提供実績記録票を渡す。活動内容を聞く。

9時30分
朝の会。封筒の印刷をする。10時30分、休憩。食堂でコーヒーを飲む。
10時45分
体操。肩と腕を実習生さんにまわしてもらった。
11時50分
昼食。スタッフと話をしながら楽しく食べた。歯磨きをした。
13時00分
トイレの介護の方法について、新しいスタッフに教えた。
13時30分
名刺をメンバーと一緒に作った。
14時30分
名刺作りをしていたが、調節が難しく、他のメンバーと交代した。名刺作りの代わりにバザーの準備をすることにした。
15時00分
作業終了。スタッフと食堂でコーヒーを飲みながら話をした。
15時40分
送迎バスに乗り込む。トイレを済ませバスに乗る。
16時50分
送迎バスが家に到着。介護者と合流し、すぐに近くの病院に電気をあてにいく。
17時30分
前に住んでいたグループホーム（オリーブ）に遊びに行き皆で、ワイワイと話をして、ご飯作りを見ていた。懐かしかった。
19時00分
近くの焼き鳥屋さんへ介護者と一緒に食事をする。支援費制度についての話をしながら楽しく食べた。
20時45分
帰宅。トイレを済ませる。友達からメールが来たので返した。1ヶ月の家計簿の集計をした。なかなか合わず苦労した。
23時00分
介護者と一緒にコーヒーを飲みながら人生（恋愛）について語り合う。
23時45分
着替えをして翌日の準備をして寝た。

2003年11月1日（土）
6時30分
起床、朝の支度をする。腕をまわして、肩の筋肉をほぐす。介護者に指示を行う 7 時 30 分、お湯を沸かしお茶をいれる。今日の朝食は昨日介護者が買ってきたおはぎであった。
8時00分
歯磨きを済ませ、ウェットティッシュで顔を拭き化粧をする。昨日、疲れていたのでケ

ース記録用紙を書き残していたので残りを書く。
9時10分
トイレを済ませて四国学院大学の学園祭に行く。泊まりの介護者が交代する。
10時00分
四国学院大学到着。四国学院のサークル「びびど」の人達に会い、教室に向かう。その教室で学生と話をし、持っていった本を読んだ。本のタイトルは「車いすのソアル」
11時00分
模擬店をまわる。昼食をとるために、何を食べようかと、いろんなお店を見てまわる。坂出の障害をもっている友達に会い、支援費の話をする。
11時30分
おでんと唐揚げと「ぽてまる」という揚げ菓子を買って食べる。「びびど」のテントで学生と話をしながら昼食を済ませた。
12時00分
F．Tさんの介護に入ってくれている学生がダンス部にいるので、ダンスを見に行った。
13時00分
介護に入ってくれている学生が少林寺の主将をやっているので、少林寺の演部会を見に行った。すごくかっこよかったので感激した。
15時00分
「びびど」のテントに戻る。卒業生と話をし、コーヒーを飲み、教室に帰って本を読むなどした。
15時30分
「びびど」に来た学生たちといろいろな話をした。音楽の話になり年の差を感じた。F．Tさんの介護者が四国学院の学生が多いため、学園祭の間、昼間の介護者が見つからなかったのでボランティアに頼んだ。
17時00分
帰宅。介護者とともに帰り、学園祭の話をした。すぐにシャワーチェアを使い、お風呂に入った。いつもより入浴時間が短かったので風邪をひかないかと心配した。
18時00分
入浴を済ませ、着替えをして、出かける準備をした。準備を終えてから友人と電話をする。明日の出かける打ち合わせをした。
19時20分
夕食を食べに出かけた。友達と待ち合わせをして近くの焼き鳥屋でご飯を食べながら雑談をする。その中でからかわれた。その人にとっては私がストレス発散になるらしい…。
22時00分
自宅に着く。コーヒーを入れ、飲みながらケース記録用紙を記入した。
23時30分
歯磨きを済まし、着替えをして、トイレをし、就寝。

2003年11月2日（日）
6時30分
Ｆ．Ｔさん起床。トイレ、着替えをし、腕をまわして、肩の筋肉をほぐす。介護者に指示しながら行った。
7時30分
お湯を沸かし、お茶をいれる。
7時45分
洗濯物を2階へ持っていき干す。
7時50分
ご飯をあたため、インスタントの味噌汁を作った。ホウレン草も調理した。
泊まりの介護者は帰り、入れ替わりに来た友人に朝食の介護をしてもらう。食器を洗い、歯磨きをして、化粧をして朝の支度を終える。
８時４０分
友人の車で教会へ行き、教会学校の礼拝に出る。礼拝の後、もう一度で聖書の勉強を中学一年生の子供とともに学ぶ。聖書のお話を聞く。礼拝が終わる
11時30分
礼拝が終わり、歌の練習を始める。12月13日に四国学院大学チャペルで市民クリスマス会に出るためのである。
12時00分
近くのコンビニへお弁当を買いにいき、教会で楽しく食べる。食後、しばらく友人とお喋りをして分かれる。
13時30分
今日は待ちに待った葉加瀬太郎のコンサートの日である。コンサート会場である高松に行くために迎えの車を待つ。介護者と合流して出発。
14時30分
道の駅でコーヒーを飲む。楽しく友人と会話をしながら、1時間くらい休憩をとり、再び高松へむかう。
15時30分
高松到着。車が大きいため、駐車場を探すのに一苦労した。やっと100円駐車場に停めて街に向かった。
16時30分
高松市内の喫茶店に入る。ケーキセットを食べながらコンサートの話をしながら、コンサートの開場まで待つ。
17時15分
高松市民会館の中に入る。車いす席に案内される。席を確認してトイレに行く。
18時00分
葉加瀬太郎の演奏が始まる。以前からCDを買っていたので、知っている曲が多かったので嬉しかった。
19時30分
演奏終了後、友人が握手会に行くため、Ｆ．Ｔさんは会場の外で待つ。

20時30分

高松の街中でお茶を飲み、コンサートの余韻に浸りながら、演奏について話しながら過ごした。

21時30分

ファミレスで夕食を食べた。泊まりの介護者に連絡すると、熱があると言われ、急遽、他の介護者を探したが見つからず、予定していた介護者に入ってもらうことにした。

23時00分

すでに来ていた介護者によって着替え、歯磨き、トイレを済ませる。

23時50分

家計簿をつけてから就寝した。

2003年11月3日（月）

6時00分

起床。トイレを済ませ、着替えをする。腕をまわし、肩の筋肉をやわらげる。

6時40分

今日は、バザーがあるので天気が気になり天気予報を見る。

7時00分

湯を沸かし、お茶をいれ、ご飯を温め、ホウレン草と佃煮を食べる。食後にお茶碗、お皿、コップなどを洗い、薬を飲む。歯磨き、化粧を済ませる。

ここまでで泊まりの介護者と次の介護者が交代する。今日は祝日のため、通所授産施設が休みなので介護者を入れた。

8時00分

今日は善通寺の寺祭りである「空海祭り」がある。施設のメンバーの会でバザーを行う予定であり、バザーに行くための送迎車が来る。

8時20分

お寺に到着。雨だったので、バザーの準備が難しかった。メンバーからは「雨女」と言われてからかわれた。

古着や日用品、陶芸品を並べる。雨だったので、あまり客が来ず、品物が売れなかった。

10時30分

バザーの店番を他のメンバーと交代し、焼きいもを買いに行く。介護者とともに食べる。

11時00分

差し入れを持って父が店に来る。父とは久しぶりに会ったので、とても嬉しかった。コーヒーとフライドポテトを買ってもらった。

12時00分

店番を交代する。久しぶりに会った知人に陶芸品を買ってもらった。トイレへいった帰りに、たこ焼を買い介護者と分けながら食べた。

14時00分

不良品の花瓶の値段を下げて売った。お客さんに喜ばれて嬉しかった。

15時00分

バザー終了後、一日の売り上げを計算した報告を受け、あまり利益がなかったのでちょ

っと悲しかった。
16時00分
　帰宅。雨のため車いすのタイヤが汚れたので、タオルで拭いた。部屋に入り、コーヒーを飲んだ。
17時00分
泊まりの介護者が来て昼の介護者と交代する。
18時30分
　トイレを済ませ夕飯の準備をする。夕飯は焼き魚と焼きなすと味噌汁を作る。
20時00分
　夕食が出来上がり、介護者と一緒に夕食を食べる。介護者が「おいしい」とほめてくれた。ちょっと嬉しかった。薬を飲み、トイレ、歯磨き、着替えをする。
23時00分
　寝る支度を整え、就寝した。

F．Tさんが1週間に利用する社会資源（2003年10月28日～11月3日において）

<table>
<tr><th></th><th>28(火)</th><th>29(水)</th><th>30(木)</th><th>31(金)</th><th>1(土)</th><th>2(日)</th><th>3(月)</th></tr>
<tr><td>0</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="6">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="4">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td></tr>
<tr><td>1</td></tr>
<tr><td>2</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td><td rowspan="2">日常生活支援(1名)</td></tr>
<tr><td>7</td></tr>
<tr><td>8</td><td rowspan="2">日常生活支援(1名)</td><td rowspan="6">友人による介護(1名)</td><td rowspan="6">日常生活支援(1名)</td></tr>
<tr><td>9</td><td>送迎</td><td rowspan="7">日常生活支援(1名)</td><td>送迎</td><td>送迎</td></tr>
<tr><td>10</td><td rowspan="7">通所授産施設</td><td rowspan="5">通所授産施設</td><td rowspan="5">通所授産施設</td><td rowspan="6">ボランティア(1名)</td></tr>
<tr><td>11</td></tr>
<tr><td>12</td></tr>
<tr><td>13</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td></tr>
<tr><td>14</td></tr>
<tr><td>15</td></tr>
<tr><td>16</td><td>送迎</td><td>送迎</td></tr>
<tr><td>17</td><td rowspan="4">日常生活支援(1名)</td><td rowspan="4">日常生活支援(1名)</td><td rowspan="4">日常生活支援(1名)</td><td rowspan="4">日常生活支援(1名)</td><td rowspan="6">友人による介護(1名)</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td></tr>
<tr><td>18</td></tr>
<tr><td>19</td></tr>
<tr><td>20</td></tr>
<tr><td>21</td><td rowspan="3">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="3">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="3">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="3">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td></tr>
<tr><td>22</td><td rowspan="3">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="3">日常生活支援(1名)</td></tr>
<tr><td>23</td></tr>
</table>

・通所授産に掛かる費用：166,400円（月額）

・日常生活支援：54,090円（1週間）

月曜日～金曜日（4.5時間）、土曜日（2時間＋4時間）、日曜日（1.5時間×2）

・自薦式ヘルパーの無料介護や友人による介護も日常生活支援に含めた費用：258,770円（1週間）

28日（9＋7時間）、29日（9＋15時間）、30日（9＋7時間）、31日（9＋7時間）、1日（10＋7＋7時間）、2日（8＋6＋8＋2時間）、3日（8＋16時間）

F．Tさんが1週間に利用する社会資源（通常は月～金まで通所授産施設に通っている）

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th><th>日曜日</th></tr>
<tr><td>0
1
2
3
4
5
6
7
8</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="8">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="4">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">日常生活支援(1名)</td></tr>
<tr><td>9</td><td>送迎</td><td>送迎</td><td>送迎</td><td>送迎</td><td>送迎</td><td rowspan="6">日常生活支援(1名)</td><td rowspan="4">友人による介護(1名)</td></tr>
<tr><td>10
11
12
13
14
15</td><td rowspan="6">通所授産施設</td><td rowspan="6">通所授産施設</td><td rowspan="6">通所授産施設</td><td rowspan="6">通所授産施設</td><td rowspan="6">通所授産施設</td><td rowspan="12">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td></tr>
<tr><td>16</td><td>送迎</td><td>送迎</td><td>送迎</td><td>送迎</td><td>送迎</td><td rowspan="8">友人による介護(1名)</td></tr>
<tr><td>17
18
19
20</td><td rowspan="4">日常生活支援(1名)</td><td rowspan="4">日常生活支援(1名)</td><td rowspan="4">日常生活支援(1名)</td><td rowspan="4">日常生活支援(1名)</td><td rowspan="4">日常生活支援(1名)</td></tr>
<tr><td>21
22
23</td><td rowspan="4">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="4">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="4">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="4">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="4">自薦式ヘルパーの無料介護(1名)</td><td rowspan="4">日常生活支援(1名)</td></tr>
</table>

・通所授産に掛かる費用：166,400円（月額）

・日常生活支援：54，090円

・自薦式ヘルパーの無料介護や友人による介護も日常生活支援に含めた費用：230,260円（1週間）

月曜日～金曜日（9＋7．5時間）×5日間、土曜日（9＋15時間）、日曜日（8＋5．5＋9＋1．5時間）